

クローズアップ ‘自主防,’ ～育もう！地域防災コミュニティ②～

昭和区
東北山自主防災会会長
西本 昭夫



【自主防災会の概要】

東北山自主防災会は、現在、26組、280世帯で構成されています。

当防災会の区域は、東西に約1.5kmと幅広い広路学区の西端の部分にあり、災害時などに避難場所となる小学校が学区の東端にあるため、避難が困難で、一時的には孤立する可能性があるといった

東北山自主防災会便り

主催 東北山町 自主防災会
共催 昭和消防署 昭和区役所

大防災訓練会

- ◎ 日時＝2月24日（土）午前11時より（雨天中止）
- ◎ 会場＝末日キリスト教会の駐車場（カネ森材木店東隣）
- ◎ 当日＝起震車が来る 体験が出来ます

- ◎ 救出救護訓練（ジャッキ、パール、チェーンソー使用）
- ◎ トイレ設営訓練（3種類のトイレを作る）
- ◎ 炊き出し訓練（おにぎり、ぶた汁、お茶）
- ◎ 起震車による体感震度訓練（震度6の体験をする）

◎ 阪神大震災から学ぼう。6,434人の方が亡くなられた。わが街は、東南海地震や活断層地震で震度も予想されています東北山町内で3ヶ所の出火があれば町全体が火災になってしまうそうすると木造、コンクリート造、古い新しい関係なく焼け野原になってしまいます。みんなで協力して初期消火し助け合いが大切となります。地震後、各家で必ずブレーカーを切ってください。後日の通電火災となります
(神戸の場合3日目～5日目に火災が起きました)

- ◎ 防災職員と子供会役員は9時集合（長靴を着用のこと）
- ◎ 組長さんは出来るだけ多くの出席人員を報告して下さい 2/14まで

危機感があります。

そのため、当防災会では、独自にしっかりとした災害への備えと、日ごろの防災訓練をしっかりとやらねばと思っています。

【大防災訓練会の実施】

今年2月に、消防署の支援を受けて、「大防災訓練会」と題して、次のような訓練を実施しました。その時の回覧版「東北山自主防災会便り」を参考までに示します。

【自主防災会の取り組み】
日ごろからの備えとして、次のような取り組みを進めています。

① 毎年4回「東北山自主防災会便り」を全戸に配付して、その時々々の防災情報を提供するとともに防災訓練及び防災講習会を頻繁に行っています。

② 平成17年度事業として、リサイクル品の風呂桶に雨水を貯水し、災害時に利用できる施

設としてゴミ収集場所付近に4箇所設置しました。今後は、18箇所を増やす予定です。

平成18年7・8月に、地元の教会及び自動車販売会社との間で、災害時に敷地の一部を臨時避難場所として使用させていただく支援協定を締結しました。

平成18年12月には、住宅用火災警報器の共同購入を行い、希望32世帯が50個を購入設置しました。

いざという時に活動する自主防災隊員を、実態に合うよう昼間隊員(7時から19時)と夜間隊員(19時から翌7時)に分けて編成しています。

災害時に安否を確認するため、当事者の了承を得て、昼間(7時から19時)及び夜間(19時から翌7時)の2種類の住民名簿を自主防災会独自で作成しました。

町内のお寺の敷地をお借りして防災倉庫を設置し、チェーンソー、ジャッキ、梯子、ボールつるはしなど救出用の器具を備えています。このほかにも、食料、毛布、簡易トイレ、炊き出し用のガスボンベ・鍋・釜が備蓄してあります

町内及び近くの歯科医師と医師に、災害時に簡単な処置をしていただけるようお願いし、防災訓練にも参加していただいています。

中学校をお願いをして、昼間に災害が発生したときには生徒を帰宅させてもらい、地域での防災活動のお手伝いをしていただくと考えています。

東北山町内会自主防災会

申し合せ20ヶ条

●日頃の準備

1. 飲料水・料理用水を三日間以上備蓄しておくこと
2. トイレ用水・防火用水に風呂の水を入れておくこと(120ℓ以上ある)
3. プロパンボンベ用の一口コンロとボンベを1ダース以上備蓄しておくこと
4. 明かり用に懐中電灯と電池とロウソクとライターを備蓄しておくこと
5. 情報用に電池式のラジオを用意しておくこと
6. 水が止まるので食器用にサランラップを備蓄しておくこと
7. 扉間・寝室の家具、電化製品、時計などの転倒防止をしておくこと
8. 扉間・寝室にスリッパを置いておくこと(ガラスの破片で歩けない)
9. 冬場の暖房用に電池式のストーブと灯油を備蓄しておくこと
10. 金庫鍵が稼働しないので最低限の現金を用意しておくこと

●災害時にすること

1. 災害時、すぐに電気のブレーカーを切ること
(配線が伸びて漏電することがある)
2. ガスの元栓を切ること(失火の元となる)
3. 食事時に地震が来たらみんなで助け合って初期消火に努める
(風呂の水をバケツリレーで！鍋が沸えれば自分の家も)
4. 地震のあとでもタンクの水圧でしばらく水は出るので、その間に色々な容器に水を溜めること
5. 庭のある家はトイレとしてまたげるように穴を掘り、周囲を掘み、用をたし使用後は土をかけておく(野外キャンプのように)
6. 庭のない家は水洗トイレで用便だけを流しトイレトペーパーは別のビニール袋に入れる。ペーパーを流すとつまりやすくなり、また使用する水が少なくて済む(大で4ℓ・小で2ℓで済む)
7. 電気が止まるので冷蔵庫の中の物が腐みやすくなる。早い内に計画的に料理をすること(缶詰はありがたい)
8. 食器は洗えないので皿にサランラップをしいて使えば、洗わず何回も使える
9. 車は一時避難所になるが、座ったままで長時間は危険
(足に血が溜まり血栓になりやすい)足を伸ばして乗ること
10. 災害後は近所の方と連絡を密にして助け合うこと
仕方なく避難所等に移動する場合は移動先と連絡先を書き残していくこと

【自主防災会申し合せ20ヶ条】

日ごろの準備と災害発生時の行動要領として、右の自主防災会「申し合せ20ヶ条」を決めています。

【今後の目標と課題】

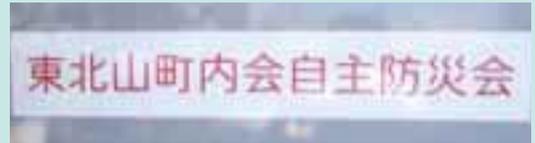
今後は防災訓練などを通して、独自にやっている事柄の意味を地域の人々に、よく理解していただく

とともに、地域の風通しを良くしておきたいと思えます。

実際の災害を考えると、まだまだ足りないことがたくさんあるのかと思いますが、何よりも、「継続こそ防災力」との思いで、こうした活動を続けていくことが最も大切なことだと思っています。



▲初期消火訓練



▲自主防災会の防災倉庫



▲救出・救護訓練



▲非常用水槽（リサイクルした風呂桶）



▲非常用トイレの展示



▲炊き出し訓練